

会員各位

「第16回歴史散歩及び忘年会のお知らせ」

拝啓、師走の候、日本の疫情を憂いつつ、ご多忙な日々をお過ごしと存じます。そうした皆様にレクリエーションと現地理解の一助にと、標記両行事を企画いたしました。以下は、両行事の要領です。皆様のご参加を衷心よりお待ちしております。

<行事1 第16回南京歴史探訪「科学博物館」参観>

集合時間：12月27日（日）午後2時20分

集合場所：地下鉄3号線夫子廟駅2号出口エスカレーター横

出発時間：午後2時30分（科学博物館まで徒歩3分程度）

入場料：大人一人50元（60歳以上は身分証提示で30元）



写真左；南京中国科学博物館外観（主な建物は地下） 同右；科学博物館内部

<科学と南京貢院>

南京科学博物館は2017年に正式開館されています。もともと科学の最終試験場である「江南貢院」（全国三カ所の一つ）があった場所に建設されました。博物館の主棟が全部地下という変わった建築様式が採用されています。

科学は、隋代（6世紀）から始まった高級官吏登用制度でした。宋代（10世紀）に制度として完成されました。試験の内容は儒教に基づいた政治論文作成です。受験資格は、原則として民族、身分、年齢の制限がありませんでした。貢院での試験（会試）合格者は、「進士」という身分が与えられ、最低でも県知事になれました。「進士は三代」と言われ、孫の代まで徒食できる収入が保障されたそうです。南京だけで3～4年に一度の試験に2万人が受験したのは当然でした。合格者数は毎回100～300人です。

受験生は大きく分けて4段階、小さく分けると8段階の試験を受験しなければなりません。形式的には皇帝の前で行われる試験が最終でしたが、これには落第はなく、実質的には会試が最終試験でした。試験は試験場に二泊三日、食事持ち込みで、缶詰めにされておこなわれました。

<パンフレット>

南京科挙博物館と科挙については、参加者に特製パンフを用意いたします。メールで参加お申し込みされた方々に、26日までに折り返しメールにて送付する予定です。



写真左；清末の江南貢院の写真



同右；貢院内部